

令和7(2025)年度

令和7(2025)年 4月 1日から

令和8(2026)年 3月31日まで

事業計画書

学校法人 北野学園

目次

1. 第4次経営計画と令和7年度事業計画の関係
2. 法人本部
 - (1) 経営基盤強化
 - (2) 教育環境の整備
3. 上田短期大学
 - (1) 幼児教育学科・総合文化学科の事業
 - (2) 学生が生涯学び続けるための柔軟な仕組みづくり
 - (3) デザイン教育の推進
 - (4) 地域に開かれた短大
 - (5) 教育改革 学習者本位の教育の継続
 - (6) 教育の質保証
 - (7) 学生支援
 - (8) 広報体制の強化
 - (9) 後援会・同窓会との連携強化
 - (10) FD・SD活動の高度化
 - (11) 研究力の向上
 - (12) 寄附金事業
 - (13) 共学化等大学改革に関する方向性
 - (14) 共学体制作り
4. 上田短期大学附属幼稚園
 - (1) 地域における幼児教育のニーズの把握及び実践
 - (2) やまほいくの充実
 - (3) 短大との連携
 - (4) 保護者や地域との連携
 - (5) 保護者支援
 - (6) 園児確保

令和7年度事業計画書

1. 第4次経営計画と令和7年度事業計画の関係

学校法人北野学園は、建学の精神（敬愛、勤勉、聡明）を旨とし、自ら道を切り拓くデザイン・マインドを持った人材を育成する法人として、将来構想を明確にするために、「第4次経営計画」（令和5年度～令和9年度）を策定した。令和7年度事業計画は、第4次経営計画の3年目として、経営、教育、施設・設備の到達目標に向け、具体的な年度計画を展開していく。

2. 法人本部

教育機関として、運営基盤の強化を図るとともに、教育の質の向上およびその運営の透明性の確保に努める。

（1）経営基盤強化

①ガバナンス体制の再構築

令和7年度の私立学校法及び本学寄附行為の改正に伴う、新理事会、新評議員会体制への円滑な移行とガバナンス体制の再構築を図る。

②ガバナンス・コードに基づく対応

令和7年9月までの遵守状況を点検し、遵守できていない項目があれば改善に取り組み、運営の適正化を進める。

③経常収支改善、収入増加および支出最適化

- ・第4次経営改善計画と令和6年度実績を比較し、乖離項目について分析をした上で、対策等を検討する。
- ・適正な予算管理と厳格な予算執行により、健全な財務基盤の確立を図る。
- ・適正な人員配置により人件費比率を下げるとともに、徹底した経費削減策を推し進めるため、各々の事業執行前に、事業効果の再点検を実施し効率的執行に努める。

④人事政策

- ・教職員の人事制度を整備し、組織の強化と活性化に努める。
- ・貢献度を公正に評価して、処遇・給与に反映できる人事制度を検討する。
- ・短大学生数が大幅に減少している現状を鑑み、現状の学生数に見合った人員の見直しを行う。

（2）教育環境の整備

- ・老朽化した短大本館の修理修繕を計画的に実施し、研究に適した環境を整備する。

3. 上田短期大学

建学の精神（敬愛・勤勉・聡明）および第4次経営計画に基づき、安定した定員確保を最大の目標に挙げ、学生・保護者・地域社会から信頼・評価される短大を目指す。また、

令和7年度より上田女子短期大学から上田短期大学へ名称変更するにあたり、新たな一歩を踏み出すために下記事業を行う。

(1) 幼児教育学科・総合文化学科の事業

①幼児教育学科

<授業実践の質の向上に関わる取組>

・コース別事業の充実

・福祉社会コース

専門性の深化と明確化を目的とする。地域の社会資源を知ると共に、現地での活動を通して、それらの資源を活用した具体的なソーシャルワークの形態を学ぶことは、双方向において職業の価値理解にもつながる。

・表現文化コース

学生自らが実社会での課題を見つけ、解決の道筋を探り、表現活動の一つの切り口として社会に貢献する体験を積み重ねる中で、実践者に必要な他者性と感性を育む。

・自然保育コース

安全かつ効果的な自然地での活動の企画・準備・実践の力を養う。

・実践力向上に向けた演習授業（体験学習、サービスラーニング、プロジェクト・ベースド・ラーニング）の強化

本学科では、とりわけ、演習活動を通じて、学生の自律的な学習姿勢の形成と、他者と関わる力（社会性）の向上を目指すために、積極的に地域社会をフィールドとする実践を行うことに加えて、グループ単位での課題発見・探求型の体験学習の実施を強化している。令和6年度の活動実績では、「地域の親子を対象とする療育コンサートの実施」「地域の中学校との協働的造形表現活動の実施」「本学の自然環境とものづくり環境を活かしたデイキャンプの実施」「伝統舞踊を通しての地域おこし支援」「まちなかキャンパスうえだでの保育実演（読み語りの会等）」が、ゼミナールを中心とする学生および教員グループによって実施されてきている。令和7年度はこれらの演習活動を学科事業の一環に組み込むことで、いっそうの充実を図り、本学におけるアクティブ・ラーニングの成果を広く発信し、学生獲得にもつなげる。

<地域の子育て家庭に資するための取り組み>

・乳児保育室設置準備

令和7年度から、保育の基本である乳児への養護的関わりと、乳児を育てる保護者への指導に関して具体的な手立てを学べる場、そして、将来的には、附属幼稚園等の未就園児支援部門と協働して地域の子育て家庭への相談機能を発揮できる場を設けることを目指して、乳児保育室の設置準備に着手する。既存の学内環境（13番教室または26番教室の一画）を活用し、保育者養成校に求められている相談援助機能を強化することができれば、地域社会における本学の知名度の上昇にもつながる。

<保育人材獲得と養成の試み>

- ・ 社会人を含めた長期履修学生受け入れ準備

地域に存在する潜在的保育者を養成し、東信地域の保育力・子育て支援力を高めることを目的とする。また、多様かつ多才な学生募集に寄与し、各学生のニーズに応じて必要な教育的支援を行えるような仕組みを整える。

<教育成果・教員の専門性のアピール>

- ・ 卒業研究結果の公開

各ゼミナールで学んだ理論・方法論を活かし、学生が自らの興味関心を探求した成果を公開することを通して、学生自身の“情報を扱う力”“情報を文章化する力”を育てると共に、本学の高等教育機関としての研究指導力をアピールする。

- ・ 地域向け公開講座の開催

各教員の専門性を発揮して、子育て家庭や小中高生を中心とする地域住民に高等教育機関での学びおよび活動の機会を提供し、また、上小圏域を中心とする保育者・教育者の現場実践力の向上に寄与する。

<入学支援>

- ・ 入学準備プログラムの実施

高等教育機関での学修にスムーズに適応できるように、入学決定者に向けて、短期大学における学習面での特徴、学生生活面での特徴についてワークショップ形式で学ぶ機会を設ける。

<事業継続の可否の検討>

- ・ 現状に即した、よりよい専門職養成の実施を目指し、令和7年度は以下にあげる事業の継続実施の可否について科内で審議検討する。
- ・ 信大との大学間提携事業を実施(合同学習会/幼児キャンプ)

②総合文化学科

<基本方針>

- ・ 共学化初年度のカリキュラムを円滑に進行させる。
- ・ 学科行事等の再興が図れるか検討する。
- ・ 学術リソースの地域社会への還元を図る。

学園を取り巻く社会状況が変化し、共学化が新たな道筋となった。それに伴い、カリキュラムを更に手直しし、新年度に臨む。

<具体的事項>

- ・ 令和7年度に向けて手直しをしたカリキュラムを推進しながら振り返りを行う。
- ・ 感染症の状況を睨みながら「学びの展覧会」以外のイベント等の展開が可能か検討する。
- ・ 公開講座開講の実現を目指す。

③両学科共通事項

・隣接している附属幼稚園との連携を更に強化し、その様子を都度地域社会へ発信することにより、短大・幼稚園共に認知度アップを目指す。

・学習支援センター開設に伴うカリキュラムの連携を進める。

・「総合的探究の時間」の高短協働指導の可能性の検討

地域の高等学校から示されているニーズである「総合的探究の時間」指導の高短協働実施の可能性を検討していくことで、地域の高等教育の向上に貢献すると共に、本学教員の専門性の高さや研究力をアピールし、学生募集につなげることを目的とする。

令和6年度の11月末の段階では、実際に上田西高等学校からすでに、協働の可能性を検討したい旨のオファーがある。現実的で効果的な連携の形をより早く構築するためにも、令和7年度には学校間でミーティングおよび試行の段階に入っていきたい。

(2) 学生が生涯学び続けるための柔軟な仕組みづくり

①修学期間の2年について

- ・在学生に対し、同窓会と後援会で連携し、キャリア教育につながるセミナーについて、内容および開催時期を検討する。
- ・フィールドで行う授業数等を増やし、学生がより深く地域について理解し、郷土への愛着を育む機会を作ることを検討する。
- ・より社会が求める能力を育成するため、卒業1年後に実施する「卒業生の評価に関するアンケート調査」の内容について、各学科・進路サポート委員会で共有し、授業および進路セミナー、キャリア教育に反映させる。
- ・働くことを意識するイベントについて、卒業生と在学生が対話しながら学ぶ形式を、今後も継続して実施する(事業所見学会、企業交流会、ジョブトーク、合同企業説明会)。

②+2(卒業後の2年)について

- ・卒業後に就職した企業(園等)を退職し、転職を希望する学生に対して、希望があれば随時面談(対面・web)を実施し、必要に応じて求人紹介を行う。また、相談体制について同窓会ホームページに掲載する。
- ・幼児教育学科の学生で、在学中に准学校心理士を取得した学生を対象に、学校心理士資格の受験に向けた対策、支援を行う。具体的には、筆記試験受験対策セミナーの開講、受験時に必要となるケースレポートの相談等に応じる。また、レクリエーション・インストラクターの有資格者に対し、卒業後に本学で開催するレクリエーション協会との合同企画を案内し、有資格者としてのスキルアップを図る機会を設ける。

③+α(生涯教育)について

- ・学ぼうとする意欲ある地域社会の人々を支援する方策案について、環境変化を考慮したうえでプラン変更の必要性を検討し、将来の方策に対して準備を進める。

- ・公開講座や公開授業等のプレスリリースや広報活動を行い、市民への学びを提供すると共に、参加者アンケート等を実施して求められている生涯教育をプランする材料とする。短大としての収入増を目指すため、65歳以上の人が余暇の時間を使用し生き生きとした生活ができる様な体験講座等提供する体制を図りたい。+α施策の必要性和実施可能な項目のリストアップを進め、議論を進めることに加え外部の意見も収集する。

(3) デザイン教育の推進

- ①学生の多岐にわたる専門領域を、見通しある学びにするために「デザインの学び」を充実させる。
 - ・デザイン専修型科目（共通）を開講する。
 - ・「学びの展覧会」を本学の教育改革のひとつの原動力となるよう企画運営していく。
 - ・分野横断を志向するデザイン教育の勉強会を開催する。
- ②自ら表現する「デザインの学び」を通して、学生の主体的なキャリア形成力即ち「自分の人生をデザイン」する方向性を育成する。
 - ・実施する共同科目の異分野教員の相互性をより深め、自立型科目への移行を図る。
 - ・カリキュラムの更なる検討を行う。
 - ・グラフィック工房および工作工房を幅広い創作と表現の場として、充実を図る。

(4) 地域に開かれた短大

- ①地域住民、行政、産業界、本学後援会等を交えたネットワークを構築する
 - ・おやことしょかん Biv の開放をより広く地域の親子に周知するため、行政との連携を図る。
 - ・同窓会、後援会の会員が講師となり、学生向けに「社会人になるにあたっての方向性を決める」「社会人としての心得」等を学ぶ機会を検討する。
 - ・包括連携協定を結んでいる長野県工科短期大学校だけでなく、長野大学、信州大学繊維学部・筑波大学山岳科学センターとの連携に向けて検討を行う。
 - ・産学公民連携を進めるために、より強いネットワーク構築を図り、上田市活性化に向けた取り組みや相互理解・連携の話し合いを行う。
- ②本学の施設開放を行う
 - ・市内幼稚園、保育園に向けて「図書館遠足（本学附属図書館や裏山をルートとした遠足）」の企画・提案を行う。
 - ・北野講堂を開放するため、吊り天井対策を検討する。
- ③学生による地域活動をサポートする
 - ・学生が自主的・主体的に地域活動、ボランティア活動を企画・実施・参加できるようにサポートすると同時に、ボランティアの魅力を定期的に発信する。
 - ・学生が自分たちの活動や学びを振り返り、かつ外部の人へ伝える機会に参加する。
 - ・まちなかキャンパスうえだを積極的に活用し、他大学の学生や地域住民との連携を図

る。

④発信の強化を図る

- ・学内において定期的な情報収集を行い、SNS（Facebook、X、LINE 等）を活用し、本学の取り組みを地域および在校生・卒業生へ発信する。
- ・上田短期大学として広報したいとき、名前を出したいときに露出できるメディアとの友好関係を現状より強いものにする。
- ・SNS（Facebook、X、LINE 等）、学びの展覧会、オープンキャンパスを含め、本学の取り組みを様々なチャンネルを通して地域および学生へ発信する。LINE については会員数を増強・維持しつつ、発信頻度を更に上げる。Instagram・TikTok も発信し、チャンネルを増やす活動をする。

⑤小中高との連携を図る

- ・第7回東信高短教育懇談会を開催し、地域の高校のニーズを掘り出すと共に、信州短期大学部の高校への関わりを学び、本学の学術リソースとつなげる方法を模索する。
- ・上田西高等学校と共に、第11回うえだ七夕文学賞を企画・運営を行い実施する。
- ・中学生のためのキャンパスツアーを長野県工科短期大学校と連携し企画・実施する。児童・生徒のみならず保護者にも参加いただき、本学をより身近に感じてもらうきっかけとする。
- ・将来の入学者となる可能性を秘めた小中学生に、本学で推し進めているデザインの学びのイベントに参加してもらい、強く興味を感じてもらおうと同時にデザインの学びの進むべき方向性のヒントとする。
- ・夏季休暇中の中高生向け図書館開放について、対象を小学生等、これまで対象としてこなかった年齢段階に広げて実施する。

⑥本学の学術リソースを地域社会へ還元する

- ・学術研究所所報第5号を発刊し、本学に所属する研究者による様々な学術研究の成果、また授業実践や社会貢献活動の成果を文書にて公表する機会を設け、“知の拠点”としての本学の役割と功績を広く周知する。
- ・上田市教育委員会事務局および上田市内5大学短大と連携で5大学リレー講座の運営を行う。また、本学主催で公開講座等の市民向けイベントを行う際には、担当教員と連動しながら地域住民へ周知する。
- ・上田短期大学を広く学びの場として利用していただくために、サポート講座（出張講座）の講座案内パンフレット発行や講師派遣を行う。
- ・年度内に2回以上図書館講座を開催し、地域の方々と教職員・学生の交流の場を設ける。
- ・紀要、みすずを発行し、学外へ公開して、広く周知する。
- ・公開講座やオープンキャンパス、図書館独自のイベントである「図書館の日」等学外の方の来館がある際に、教員の著作・おすすめ本、学生による図書館や書籍に関わる

製作物等を展示し、本学の学びを地域の方々に知ってもらう場を作る。

⑦学生がグローバルな視点を持てる環境づくり

- ・異文化理解を目的とした企画を開催する（年間で4回を予定）。学内を中心に企画を行うことによって全学生が任意で参加する機会を作り、異文化理解や国際交流の視点を醸成していく。
- ・学生に異文化理解、多文化交流を目的として国際交流の機会を提供する。具体的な内容としては、上田市多文化共生推進協会（AMU）と連携し、日本語アムアムや多文化交流フェスティバル等、外国籍市民の方との交流を継続する。それぞれの企画への参加を通して、海外への興味・関心を広げ、国際社会の一員としての知見を深める。

（５）教育改革、学習者本位の教育の継続

①カリキュラム、シラバスの充実・改善をする

- ・教職課程の教育内容を点検する。教職課程の運営に遺漏がないよう努める。あわせて、教員養成に関わる学内の組織体制や学習環境についても随時点検を行い、更なる充実を図る。
- ・カリキュラム・マップとカリキュラム・ツリーを用いた科目レベルでの査定サイクル（PDCAサイクル）を実施する。
- ・シラバスの内容を点検する。特に学習成果の明記と学習成果の系統化について、各学科に必要な情報を提供し、シラバスの充実、改善を図る。
- ・ポータルシステムを積極的に運用し、より学生の利便性向上を図る。
- ・学生および教職員にカリキュラムやシラバスへの理解を徹底する。教職員に向けてカリキュラム・マップやシラバスの説明会を実施し、改定内容の理解を共有する。学生にはオリエンテーションやスタディスキル等でシラバスの読み方を説明する。
- ・科目担当の見直しを図る。各教員の専門性を再度見直し、担当授業科目の適正化を検討する。
- ・履修カルテやアンケート調査等を用い、組織的に学生の学修時間および学修行動の把握を行うと共に、その結果を大学等の教育活動の見直しに活用していく。

②編入学体制の強化

- ・4年制大学への編入を希望する学生には、早期から面談を実施し、本学に届く編入学情報を伝えると共に、合格に向けた支援を行う。
- ・男子学生が希望する学部について情報収集し、既存の指定校先に対し、同大学の他学部についても指定校枠が可能であるか、各大学へ依頼することを検討する。

③入試改革を行う

- ・入試改革については、現行実施している特待生入試制度について、令和6年度に検証を具体的に行った。本学への志願者と、特待生制度が求めている学生の質に、ミスマッチが生じていると思われる。特にSG特待生入試については、入試導入時の本学が求める学生像に鑑みながら、質の高い学生確保につなげるために、入試科目の見直し

や問題のレベルの設定を模索しつつ改廃についても検討する。

(6) 教育の質保証

①授業改善活動を推進する

- ・学生の能動的な学修を重視した「デザインの学び」を推進するにあたり、シラバスの内容を点検し、カリキュラムの内容を精査し、改善する。
- ・アクティブラーニングを行うためのノウハウを共有する。
- ・数理データサイエンスAI教育プログラムについて、調査・研究する。
- ・FD委員会・教務委員会と連携して、教員の授業改善活動の推進支援をする。具体的には、授業評価アンケートの実施や集計、結果を公表し、現在ホームページで公開しているIR情報の充実につなげる。

(7) 学生支援

①「学生サロン」の設置を検討する

学生サロンとして学生の居場所（図書館 1F 閲覧室、学生ホール、各教室、旧学生寮 1F ホール）について学生や教職員より意見を募りながら、更に満足度を上げられるような場所へ改善していく。

②学生状況調査の実施と集計を行う

学生の状況を把握することで教育体制および学生支援、施設、設備等の充実・改善に役立てるため、教務委員会と学生委員会合同で行う。

③学生相談体制を充実させる

- ・学生の個別性と多様性に配慮しつつ、教育的・成長促進的視点にあった的確な支援が行えるよう、全教職員がその役割を担う。
- ・学生の相談内容に沿った支援ができるよう、学内外の機関との連携を強化する（学生相談フローの見直しを行う）。学生を専門機関へつなげた場合は、専門機関や関係者の助言を受けながら、定期的・継続的な関わりを維持していく。
- ・教職員は、学生のメンタルヘルスおよび障害等に関する基本的な知識の習得に努める。
- ・保健室および学生相談室は、健康診断時に行う健康調査から支援や助言が必要とされる学生へ早期に働きかけ、適切に把握したうえで、個別ニーズに応じた予防、啓発、支援に対応する。専有スペースの保持、安心して相談できる環境（来室しやすい環境）を整える。

④学生の生活支援を充実させる

- ・学生生活の満足度を上げるため、学生状況調査以外にも学生が意見を出しやすい方法を検討する。出された意見に教職員より回答し、学生とのコミュニケーションを図る。
- ・防犯・年金・消費生活等自立した社会人として欠かせない様々な基礎知識を、オリエンテーション等を利用し、外部講師による指導（講話等）や教職員による学内指導、冊子の配布等を行う。

⑤障害学生支援体制の構築する

- ・障害学生支援室（入試に関しては入試広報課）を中心に、障害のある学生の要望に基づき適切な配慮、調整を提供するために、支援の申し出から支援内容決定に至るまでのプロセスを明確にする。学期・年度ごとに定期的な面談、相談を行い、本人のニーズの把握と支援に必要な情報を取得し、教職員と連携し、具体的な方策を講じる。
- ・障害者支援の取り組みをオリエンテーション等で全学生へ周知する。
- ・教職員が障害に関する基本的な知識を学び、合理的配慮への理解を深められるよう、FD・SD 委員会と連携して学内研修会を計画・実施する。学外研修会の案内を広く周知し、より多くの教職員に浸透を図る。

⑥進路支援を行う

- ・就職活動イベント

幼児教育学科

専門職として就く職場は幼稚園・保育園・認定こども園に限らない。保育士資格を生かし、施設で働くことも可能であることから、多様な施設での働き方を知ingことを目的に、施設合同説明会を学内で開催する。令和6年度は児童発達支援、障がい者施設、児童養護施設の説明を聞いたが、今後の依頼先は学生のニーズを参考に検討する。また、幼児教育学科で学びながらも、資格（保育士資格・幼稚園教諭二種免許状）を取得しない学生に対しては、可能な限り早期から一般職の案内、求人紹介、企業説明会等の各種イベントを伝え、柔軟に対応する。

総合文化学科

自己分析・仕事研究を行う機会を増やし、様々な業種を知るイベントを学内外で実施する。また、業種・職種を理解することに加え、内定後、就職後のミスマッチを回避できるように、積極的なインターンシップへの参加を指導し、情報提供とサポート体制を強化する。

男子学生が関心を持つ業種・職種を把握するため、1年次早期に希望業種・職種を調査し、イベントの依頼先（企業）に含めることを検討する。また、男子学生が卒業後に求める業種について、学生から得た情報を学科と共有する。

- ・面接対策

学科問わず、受験前に職員・教員による模擬面接を行い、実際の面接に近い状況で面接対策を行う。

- ・個別面談

全学生と最低1回は行っている個別面談について、一般職を希望する総文1年生は2回実施する。また、オリエンテーションやセミナー等で随時面談可能であることを伝える他、長期休暇中は対面に加えてメールやZoomでの面談も行い支援をする。

- ・企業とのつながり強化

会場形式で行う就職相談会、単独企業説明会には職員も同行し、就職活動に対し自

ら動けない学生への支援を強化する。また、相談会・見学会で縁があった企業とは、積極的につながり、求人開拓に結び付ける。

製造業の一部では、女子ではなく、男子学生を求める企業がある。就職相談会や就職フェアでは、これまで本学と縁が無かった企業と積極的につながり、情報収集する。また、共学により男女問わず幅広い職種において、企業が本学に関心を持つ関係性を構築し、求人開拓を行う。

- ・卒業生・卒業生の評価に関するアンケート調査（1年後の定着率確認）の実施

アンケート結果より就職1年後の傾向をつかみ、結果を学内全体で共有し、進路セミナーおよびキャリア教育へ反映させる。またアンケート結果は、卒業生・卒業生の評価共に、本学ホームページに掲載する。

- ・資格支援

社会に出てからも役立つ資格の複数取得に向け、オリエンテーション、進路セミナー、キャリア教育(キャリアアップ)等で積極的に案内し、在学中の取得を薦める。また、資格報奨金制度の対象資格を伝え積極的に挑戦するように指導する。

- ・公務員試験対策

1年次春と後期オリエンテーションおよび2年次春に両学科に対して、「公務員ガイダンス」を実施し、公務員の魅力・業務内容について伝える他、公務員試験案内と複数受験を指導する。また、令和7年度から共通教育科目内に公務員講座を開設し、1年次前期から基礎学力の向上を目指す。続いて、1年次秋には、「公務員合同説明会」を学内で開催し、保育士・行政共に公務員志望の学生は、各自治体の保育や行政、また公務員としての働き方等、対話形式で相談できる機会を設ける。

（8）広報体制の強化

①定員を確保する

高校生本人に対しては、進学雑誌への情報掲載と情報収集、WEB資料請求のサポート体制を引き続き行う。高校ガイダンス・会場ガイダンスでの直接的な対面による働きかけを励行し、オープンキャンパスへの誘致を積極的に行う。オープンキャンパスでは、学校説明・学科説明・模擬授業の他、学生独自の企画イベントを採用している。このイベントについても改良を重ね、受験対象者に最も近い現役学生との接触に焦点を当てる。告知方法としては、DMやホームページ・SNSの発信に加え、公共施設・商業施設等への紙媒体の設置を依頼する。

保護者に対しては、接触機会も限られることより、オープンキャンパスでの個別説明の内容充実を図り、学納金・奨学金、学生生活、卒業後の進路等サポート体制の周知徹底を行う。

本学を県外へも告知する機会としては、新潟以外の近隣都市でのイベント計画や、他県の高校への訪問等の働きかけも行う。

高校教員に対しては、入試説明会の効果的なタイミングでの実施(本学・松本・上越)

を計画する。双方向の議論による提案型出前授業・模擬講義の開催を実施し、受験対象の3年生のみならず、1・2年生と接触し、進路選択の動機づけにつなげたい。また、学校見学を適時適切に積極的に受け入れ、学内施設を実際に見てもらい、体感に基づく学校選択の一助としてもらう。

高校訪問は、学生募集の生命線であることから、「顔の見える」広報・募集活動を展開する。高校訪問を積極的に行い、在学生の現況・卒業生の足跡等を、リアルタイムに提供する。高大接続の観点からも、現場教員の意見・要望を聴取し、本学独自の連絡懇談会等の運営に活用する。

近年、県内外を問わず通信制高校への進学者が増加している。この要因について、つぶさに情報収集・分析を行い、通信制高校への接触・働きかけを強化する。通信制高校側の現場のニーズを汲み上げ、学内にて共有し募集活動に役立てる。

学びの多様化・学修機会の幅広い提供に向けて、社会人学生や長期履修生制度の拡充等、現役高校生以外の年齢層への接触を図る。公的機関やその外郭団体と連携し、多様な学び方・働き方およびリカレント教育等を、追求している幅広い年齢層へのアプローチを行う。学内においても、入試広報課主催イベントに幅広い年齢層の対象者を誘致するべく、部門横断的に連携し学外へ向けての広報を実行する。

②ホームページの充実を図る

ホームページのリニューアル2年目となり、業者を経由しない本学からのスピーディーな能動的情報発信を引き続き行う。また、Webサイト計測結果を分析し、募集活動につながるページへのアクセス数やホームページ内での回遊率や滞在時間も増やし、より本学を理解いただけるホームページを構築する。

③メディア戦略等を再検討する

- ・本学のブランド力向上のために、デザインの学びの認知度拡大を狙い、地元企業とタイアップを模索する。企業からのメディア露出を計画し、同時に本学もメディアに取り上げてもらう広報を行う。
- ・共学化初年度なので、月1回程度は新聞等の媒体で短大名の露出を行う。そのために他部署と情報交換含め連動をする。

(9) 後援会・同窓会との連携強化

- ①後援会・同窓会と連携し、会員にとって魅力ある活動、イベントを企画・実施する。
- ②後援会・同窓会の会員が講師となり、学生向けに方向性を決める、また社会人としての心得等を学ぶ機会を検討する。
- ③授業見学Dayを活用し、同窓会や後援会にも案内（ホームページ、メール等）して、参加を促していく。

(10) FD・SD活動の高度化

- ①SDセミナーの充実により教職員の知識向上とスキルアップを図る。
 - ・セミナー内容は、今、社会で注目されている事柄や、学校運営において、学内全体で

十分に理解を深めておく必要があるものを取り入れ、認識不足によるミス防止を図る。

- ・担当部署の業務に限らず、他部署の業務に関心を持つ研修会を開催する。

具体的には、事務局会議で各部署の業務内容や直面する課題についての発表を行い、事務局の業務全体に関心を持つ機会を設けて、日々の意識を学内全体に向けさせる。

②各部署の業務改善を進める

- ・各部署の業務内容を見直して、ミス防止策を検討し、実践する。

③FD 委員会・教務委員会と連携して授業改善活動を推進する

- ・FD 委員会・教務委員会と連携して、教員の授業改善活動の推進支援をする。具体的には、授業評価アンケートの実施や集計、結果を公表し、現在ホームページで公開しているIR情報の充実につなげる。

(1 1) 研究力の向上

①学術・実践交流の場の企画・運営

- ・両学科に所属する研究者が関心を寄せることができるテーマ等での研修・講習・勉強会を企画、実施する。
- ・本学に所属する研究者間の交流の場、新たな研究アプローチの模索、また研究法学習の場を設けることで、研究および授業実践や社会貢献活動の成果を共有したり、各自の研究法の幅を広げ技法を磨いたりする機会となる。このとき、学外の研究者、実践者もまた参加可能であれば、保育・教育・福祉の現場にアカデミックな環境を醸成していく可能性を内包する取り組みとなる。

②学内研究環境の整備：外部資金公募情報の一覧づくりとその更新

- ・令和6年度までの本学の獲得実績をふまえながら、外部資金の公募情報を一覧にまとめ、常時最新版に更新し、また、適宜、学内の研究者に向けて配信する。

本学に所属する研究者が多様な外部資金情報にアクセスしやすくし、個人、またはユニット単位の研究事業の可能性を高めると共に、資金源を獲得する手立てを広く周知する。

③学内研究環境の整備：コワーキングスペースづくり（継続中）

- ・令和6年度に拠点として確保された本館2階11研究室内に、作業および小集団ミーティングが実施しやすい環境の整備を行う。

令和6年度の実際の利用時に課題となった「机」での作業しにくさを改善し、研究発表や研究成果を論文化する際に必要な作業を円滑に進められるようにする。また、集しやすい「机」のレイアウト等の工夫によって、研究者間の日常的な交流促進を図り、個々の研究者の研究力向上、情報収集の効率化を促し、不正を誘発しやすくする“職場内での研究者の孤立化”を予防する。

(1 2) 寄附金事業

①「50周年記念事業募金」に続く、新たな事業募金を検討し、教職員および退職者、各団体として同窓会、後援会、その他本学取引先企業等にも協力を願うべく、広報していく。

②寄附金事業以外に、ふるさと納税やクラウドファンディング等、別のアプローチも検討していく。

(1 3) 共学化等大学改革に関する方向性

魅力ある短期大学となるために、幼児教育学科および総合文化学科が連携を図るべき新たな具体策と、両学科がより社会に求められる学科となるために実施すべき具体策を引き続き検討する。

(1 4) 共学体制作り

①2年分男子学生受入の準備を行う。

②男子学生を孤立させないよう、長野大学とのサークル連携や、学内においても男子学生へのきめ細かいサポート体制を整える。

③幼児教育者を目指す男子学生の拠点になるよう、工夫を凝らすと共に発信力を強化する。

4. 上田短期大学附属幼稚園

本園の教育目標および学校法人北野学園第4次経営計画に基づき「やまほいく」を基盤とした教育活動を行い、主体的に遊ぶ園児を育む幼児教育機関として、保護者および地域から信頼される幼稚園になることを目指す。

(1) 地域における幼児教育のニーズの把握および実践

地域において子育て世代が求める幼児教育のニーズを、自治体関係者や専門家・子育て世代と対話することで把握する。その中で幼稚園機関として担える体制や活動については、実践につなぐことで、園が地域の役割として機能していくようにする。

(2) やまほいくの充実

①令和4年度から3年間実施してきた裏山整備事業(「やまんばの森プロジェクト」(公財)長野県緑の基金『令和4年度「自然保育」園庭・裏山整備・活用モデル事業』)で培ったノウハウを生かし、短大と連携して本事業を継続させる。3年間の実績を映像や資料にまとめ、発表や開放の機会にてさらに専門家の助言を求め、今後の活動へ活かす。

②自然環境の中でしかできない原体験を大切に捉え、その意味や効果について研究を深める。また、子どもたちが「自然環境を活かした暮らしの営み」に興味を持ち、日常の暮らしでは体験できないことに挑戦する機会を作ることで、ワクワクした気持ちや充実感を味わえるようにする。

③自然保育や環境保育・インクルーシブ保育の観点から、園庭や裏山の環境を見直し、子どもたちが自ら遊びを創り出し、身近な自然や素材とかかわれる環境づくりを行う。

(3) 短大との連携

- ①学生が、知識としてインプットした学びや疑問を、実際に子どもたちと関わることで知ったり試したりできる「アウトプットの場」として機能する。学生にとって来園しやすい雰囲気づくりや態勢づくりを行い、Instagram 投稿により学生が園での情報をキャッチできるようにする。
 - ②デザインキャンプ上田をモデルとし、短大と幼稚園のコミュニティを編み合わせた新たなコミュニティを創り出し、そこでつながった人々と学生や園児と一緒に体験できる連携プロジェクトを作る。
 - ③教員との連携講座の回数を増やし、園児保護者や地域へ公開し、短大の附属幼稚園としての特色を更に発信する。
- (4) 保護者や地域との連携
- ①園児家族の協力のもと、子どもたちにとって豊かな学びと体験の場となる園づくりを共に目指す。園に来園して子どもたちと一緒に活動したり、職員との関係性を深めたりできる機会を増やす。
 - ②「お父さんサポーター」「おじいちゃんサポーター」「おばあちゃんサポーター」といった協力を積極的に求め、世代を超えた関係者が気軽に集える雰囲気を作る。
 - ③前途の保護者や「幼稚園サポーターなないろ」と共に地域とつながるコミュニティを形成し、その地域性を活かした園児の体験活動を行う。
- (5) 保護者支援
- ①保護者が集うきっかけとなる場（サポート活動・サークル活動）を設定し、保護者同士のコミュニティが作りやすい環境を園が提供する。
 - ②保護者向けに園を開放し、普段の園の様子を見ていつでも気軽に教員に相談できる体制づくりをする。
- (6) 園児確保
- ①子育て支援事業（親子登園たんぽぽの会、園開放、公開講座）の充実、幼稚園サポーターなないろと協力したイベント、やまほいくに特化したイベント、妊婦や0歳児親子を対象としたイベントを開催し、地域の子育て世代に園の特色をアピールすることで入園の希望者を増やす。
 - ②園の特色や日常の様子をホームページ・SNS・メディア等に幅広く広報する。また、在園児保護者によるプラスの口コミが広がるよう、保護者への発信の仕方についての研究を深め、発信力を高める。